

今年は豊作でした!

## 会長あいさつ



はじめまして、あいちサトラポ里山開拓団会長の片岡 蔵雄と申します。このたびサトラボ通信の発刊にあたり、開拓団活動の歴史や発刊の経緯についてお話しさせていただきます。

われわれ里山開拓団は、2005年に開催された愛知万博（愛・地球博）の理念である“自然の叡智”を体験できる公園づくりに集まった愛知県民で構成され、愛

知県等と協働で日本の原風景を体現し、先人の知恵を伝え継承できるように、愛・地球博記念公園の「あいちサトラポ」エリアで里山づくり活動をしています。集結時には、お試しラボとして田・畑・森の3つのグループで活動をはじめ、里山づくりを通じていろいろな検証をする実験の場（ラボラトリー）として始まりました。

活動当初は、土の中に隠れていた万博後のがれきを撤去するという闘い（苦労）があり、正に「開拓」という言葉がぴったりと当てはまる状況でした。

その後、活動拠点となる「ラボハウス（＝園内休憩所）」が完成し、本格的な里山体験ができることとなり、同時に年間プログラムを公募により募集することで、公園利用者にも四季折々の里山を味わっていただくことになりました。

そして、今年は、2011年に開拓団として発足して以来10年の節目にあたり、もっとより多くの方に「あいちサトラポ」を知っていただき、里山風景の懐かしさ・新鮮さ・楽しさを体現し、昔からの知恵や伝統に触れていただく機会を少しでも増やすことができないかとの思いで、皆さんに情報発信しようとする今回の発刊を決意したところです。

それでは、これからの「サトラボ通信」をお楽しみください。なお、現在の活動状況や今後予定されているイベント、里山の知恵などの詳細は、この後の記事で紹介させていただきますので、よろしくお願いたします。





## 各グループの活動（2021年4月～9月）

### 田んぼグループ

サトラボには、広さ950m<sup>2</sup>の大小4枚の田んぼがあり、もち米とうるち米を育てています。田植えは6月に、稲刈りは10月に行いますが、稲刈りまでには、約10ヶ月以上の作業が必要となります。一部耕運機を使用しますが、あとはすべて手作業となります。初冬より堆肥を入れる作業が始まり、桜が咲く頃に耕運機にて、田んぼの土を掘り起します。これは土に空気を沢山含ませ、根の成長を促すために行います。この作業を田起こしと言います。5月の中旬に、田植えの準備のため、代かきをします。田んぼに水を入れ土と混ぜ合わせて、土の表面を平らにして、苗を植えやすくします。約1週間後にみんなの力で田植えを行います。この後4ヶ月は成長に欠かせない、水の水位管理（3cm～5cm）が大変重要となり、確認は毎日行います。また成長の妨げになる草も手作業で毎週除去します。その他害虫・天候等、特に台風の影響にも注意し、豊作を願い、長い作業が続きます。



### 果樹グループ



果樹グループでは、梅、モモ、ブドウ、ブルーベリー、ミカン等々の樹を育てています。無農薬、有機農法で育てているため、収穫される果実はもちろん、葉や、果樹の周りに生える雑草も自然そのままの幸として安心して食べることが出来ます。

一方で、サトラボの土地は粘土質で痩せている上に、病虫害、害獣の被害は後を絶ちません。自然に対して人間側があまり主張せずに農作物を育てていこうとすると、ある程度限界があるのですが、そこはサトラボなのであまり肩肘張らず自然体での果樹栽培をしています。今年、梅、モモ、ブラックベリー、ヤマモモが豊作でした。梅は団員により美味しい梅干しに加工されました。ブラックベリー、ヤマモモはジャムやシロップになりました。葉の活用では、ホウノキの葉で朴葉寿司を作ったり、ヨモギを摘んでお茶にしたりしました。果樹や野草に興味のある方は一緒に活動しませんか？

### 畑グループ



サトラボの畑には、春から夏、秋から冬のそれぞれの季節に、多種多様な野菜が栽培されています。今年の春・夏野菜は25種類ほど、秋・冬野菜は30種類ほどが栽培されています。これら多種多様な野菜は、かつての里山の農家が、自分たちの日々の

糧とするために作っていたであろう景観を再現しています。そのため、地域の伝統野菜である真菜（マナ）や紅菜苔（コウサイタイ）なども育てています。畑グループでは25名ほどのメンバーがそれぞれ自分の担当野菜の世話をしており、これまでに野菜作りの経験がある人もいれば、全くの初心者もいます。経験者に聞いたり、本やネットで育て方を調べたりしながら、野菜作りに励んでいます。

### 花壇グループ

サトラボの入り口には、春はチューリップなどの球根種の花々が鮮やかに咲き、夏には宿根草のキキョウが花壇いっぱいに咲き誇る風景が見られます。

秋はラボハウス裏のシューメイギクが見頃です。四季とどりの花々の手入れをしています。



### 森グループ

サトラボ森グループは少数精鋭で年齢幅8才から80才で活動しています。従来からの里池の森、竹林に加えて現在は広大な南の森も担当しています。

健全な森作りと子供達を含めた教育に取り組んでいます。竹林の整備がうまく行えてイノシシの獣害もほとんど無く写真のような筍の収穫ができました。里池の森は数年本格的な整備を行ってなかったのが重点的に作業をしています。南の森では絶滅危惧種のギフチョウを保護する目的で鈴鹿寒葵やツツジの保全をしています。また、椎茸の栽培を行っており、椎茸の菌打ちして仮伏せしていたものを5月には本伏せ作業をしました。収穫が楽しみです。夏には田んぼの案山子作りを行いました。今年は雨天が多く、森での作業ができない日が多くあり、木工作業で工作机、来園者用のテーブル等作りしました。



子供達には森のサイエンスと称して木の中に金具を通す体験をさせました。これは木の性質を学んでもらうための実験です。

### イベントグループ



体験・企画グループは、県民の皆さんに、あいちサトラボで、田んぼ・畑・森などでの活動を体験していただくプログラムの企画・実践するグループです。「田植え」「稲刈り」「各種収穫体験」など、単発のイベントから四季折々の里山体験ができる年間プログラム等があります。

2021年前半は、「田植え」「里山たいけん隊」「サツマイモエコクラブ」が行われました。公募「田植え体験」では、18組の参加者がと一緒に三ノ田・四ノ田にうるち米を植えました。「里山たいけん隊」は、田植え・麦刈り・麦の脱穀・かかしづくりを体験しました。「サツマイモエコクラブ」はサツマイモの苗を植え、成長を観察してきました。

新型コロナウイルス感染対策を行いながらの開催は、なかなか考えることが多かったのですが、参加者の皆さんにとっては屋外での活動でリフレッシュができていたことが笑顔から伝わり、このような活動が必要とされていることを感じました。



## 特集：季節の行事から

### 田植え（5月29日、6月3日）



天候に恵まれた5月29日・6月3日の両日にたいけん隊家族と公募家族及び関係者の170名にて、一苗・一苗手作業で4つの棚田に、もち・うるち米の田植えを行いました。サトラボの4枚の田んぼの田植えは、毎年公募と年間プログラムの参加者達とで、2週に渡って手で植えています。田植えが初体験の家族も多く、最初は田んぼの泥濘と生ぬるい水の感触に戸惑いました。腰をかめ、慣れない姿勢と、田んぼの土から足が抜けなくなるなど悪戦苦闘しましたが、少しずつ慣れていき植え終えることができました。

今年は、新型コロナウイルスの感染対策として、隣りとの距離を確保するための工夫を凝らしながらの田植えとなりました。

初めて田んぼに入った子は、田んぼ特有の感触や足を取られて思うように歩けないと四苦八苦していたものの、最後にはみんな

な田植名人になっていました。

田植え後の田んぼの中と畦には、稲の成長を妨げる草が発生するため、これも手作業で、一本・一本取り除きます。3～5本の苗1株が、7月上旬にはその株が20～25本位に成長しました。この時期に一度田んぼの水を抜き、土にヒビが入るまで乾かします。これは土中の有害ガスを抜き酸素を補給する為です。8月下旬に待望の穂が出ました。これからが、一番大事な成長期間となります。穂の成長に伴い、一番の問題は害虫が発生することです。大敵は体長5mmのウンカです。稲の葉や茎から汁を吸って枯らしてしまいます。心配ですが、みんなの力で植えたもち・うるち米、収穫が楽しみです。



### 稲刈り（10月2日、9日）



今年は長雨の冷夏だったにも関わらず、9月の下旬にはしっかりと穂が大きくなり、重そうに垂れてきました。いよいよ稲刈りの時期です！台風16号の影響が心配されましたが、まずは10月2日、吹く風も心地よい秋空の下で、里山たいけん隊参加のもと、無事に2枚の田んぼの稲刈りを終えました。たいけん隊家族は3班に分かれて、「刈る」「束ねる」「ハザかけ」の3つの作業を行いました。

「刈る」と「束ねる」の作業は、6月に麦の収穫時に体験があり、鎌も上手に使えました。今年は稲株が大きく、子供の手で握って刈り取るのと、刈り取った稲の

束を、稲わらで束ねるのに苦戦する子もいました。束ねた稲は、くいと竹で組んだ、横幅約20m前後の掛け棒に掛けて、約2～3週間天日干します。この作業をハザかけと言います。10月下旬に、乾燥を確認して脱穀を行います。田植えから約5ヶ月、コメ作り作業は無事終わりを迎えます。

「公募」と「年間プログラム」の2週に渡っての稲刈り。10月9日は公募による参加者による作業日でした。たいけん隊と同じく、参加者は3班に分かれ、「刈る」「束ねる」「ハザかけ」の3つの作業を交代で行いました。

両日とも暑すぎるくらいの晴天。コロナ禍で溜まったストレスを、清々しく外作業をすることで発散できているのが、みんなの笑顔から伝わってきました。



### サトラボメモ

あいちサトラボでは、さまざまな里山体験ができるプログラムを実施しています。その一つに「里山たいけん隊」という年間プログラムをご紹介します。一年間にわたり里山の活動を開拓団と共に体験していただきます。毎年5月の「田植え体験」から翌年3月まで年10回のプログラムです。田や畑や森のある里山空間で土に触れ米や野菜の成長を実体験し、季節の行事なども体験できます。

その他、一般公募企画として今年は「田植え」「稲刈り」の体験プログラムを実施しております。公募で申込まれた参加者の皆さんと団員とで一緒に体験していただきます。田んぼの中に入るのが初めての子ども達も多く、貴重な体験です。

里山は、「自然の循環」と「人の知恵と工夫」が生かされている場所です。そんなサトラボにぜひお越しください。



## 私のおすすめ

### 調理班より 「試食会のメニュー紹介」

サトラポでは、毎月一回、月例会の日に合わせて試食会を開きます。コロナ禍の昨今は、感染防止の観点から個食の弁当に偏りがちですが、それでもできる限り素材を生かし、季節感を盛り込んだメニューを心がけています。

試食会は、調理班の腕の見せ所、数日前から準備に取りかかります。畑の野菜を見て回り、何を作ろうかといろいろ考えるのも楽しい作業です。新鮮かつ安全な食材で作った昼食は、団員の皆様に好評で、調理班員の意欲を高める原動力になっています。

例年ならば、田植えや稲刈り、毎月のプログラムで来園される方々との昼食作りも今は叶わず、サトラポの収穫物を堪能していただく機会が遠のいていることをもどかしく思っています。新型コロナが収束して、心からのおもてなしができる日が一日も早く戻ってくることを心待ちにしています。

7月のレシピ  
朴葉寿司と夏野菜弁当



9月のレシピ お彼岸弁当

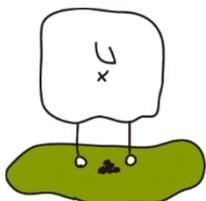
## 今後の行事予定

今後のサトラポの行事予定をお知らせします。

月	内 容		
11月	20日(土)	収穫祭(今年は団員及び関係者のみで開催) 9:30~ 植樹祭	27日(土) 月例会
12月	4日(土)	里山たいけん隊⑦	18日(土) 里のエコクラブ①
			25日(土) 月例会
1月	15日(土)	里のエコクラブ②	22日(土) 里山たいけん隊⑧
			29日(土) 月例会
2月	5日(土)	里山たいけん隊⑨	19日(土) 里のエコクラブ③
			26日(土) 月例会
3月	5日(土)	里山たいけん隊⑩	19日(土) 里のエコクラブ④
			26日(土) 月例会

## お知らせ

「あいちサトラポ里山開拓団」の団員を募集しています。開拓団は、あいちサトラポエリア内で、団員相互に協力しながら里山づくりの活動をします。具体的



には、米づくり、野菜づくり、果樹園の手入れ、森の手入れ、花壇づくりなどがあります。毎週土曜日が共同作業日で、多くの団員が活動しておりますので、是非見に来てください。お待ちしております。

## 編集後記

サトラポ通信の第1号、いよいよ発行です！慣れない作業の連続ですが、ゆっくり、じわじわと発行の環を拡げていけたらよいな、と考えております。読んでくださった方、ありがとうございます。これからもよろしくお祈りします。



サトラポ情報発信の先輩「あいちサトラポ里山開拓団」のブログがあります。その月の行事の報告や今後のスケジュールなどの情報を得ることができます。

左のQRコードからぜひ訪れてみてください。

発行所 あいちサトラポ里山開拓団  
 発行人 片岡 巖雄  
 住所 愛知県長久手市茨ヶ廻間乙 1533-1  
 愛・地球博記念公園管理事務所 里山開拓団事務局  
 TEL 0561-64-1130